

# 高次脳機能障害支援における「三重モデル」をご存知ですか？

「三重モデル」とは・・・

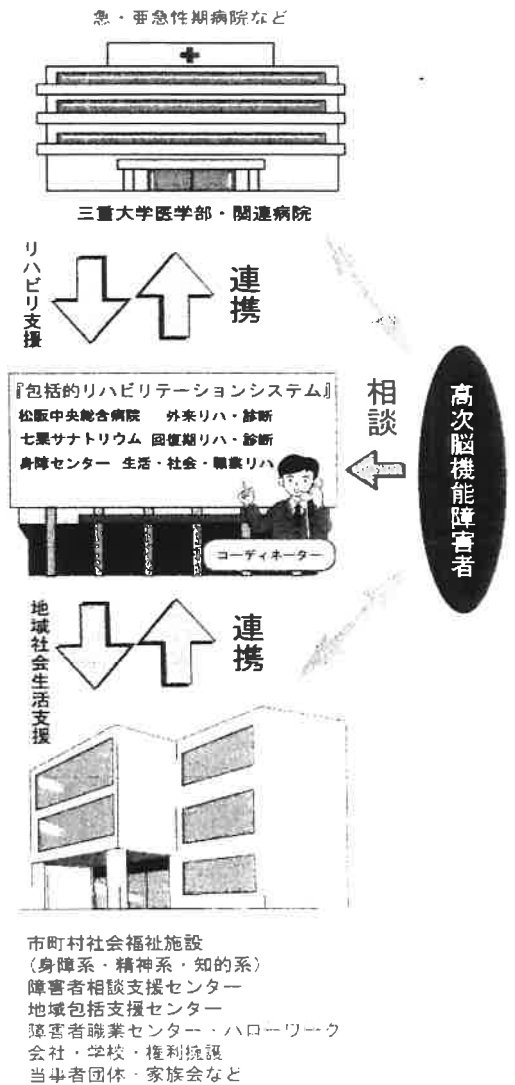
- ・高次脳機能障害者に対して提供される診断、訓練、生活支援などを体系化し、当事者を取り囲むさまざまな問題を包括的に解決可能とする支援システムです。
- ・急性期、回復期、維持期を担当する三機関が包括的リハビリシステムを構築し、それを中心として医療、福祉、行政、労働などの関係機関が連携するシステムです。
- ・具体的には

- ① 急性期：松坂中央病院  
急性期リハ  
高次脳機能障害の診断  
外来での認知リハビリ  
維持期のアフターフォロー
- ② 回復期：藤田保健衛生大学七栗サナトリウム  
入院での認知リハビリ
- ③ 維持期：三重県身体障害者総合福祉センター  
総合相談窓口  
生活・社会・職業リハビリ  
啓発普及活動

各機関が担当分野は主体的に活動し、さらに互いの連携を強化することにより、円滑で強力な支援活動を展開しています。

## 三重モデルの特長

- ① 既存施設の再構成
- ② 「救命」から「社会生活復帰」までの連続した支援
- ③ 包括的リハビリテーションプログラム



今回の講習会では、三重モデル立ち上げから中心としてご活躍された白山靖彦先生に基調講演をお願いしました。まず白山先生に高次脳機能障害についての基本的事項をお話しいたしますが、その中で高次脳機能障害支援における連携の重要性や、三重モデルの目指す形についてもお伺いできることと思います。

また、その後のシンポジウムでは「三重モデル」で中心となる三機関でご活躍されている先生方に、各機関のご紹介と活動の現状、三重モデルの中での役割についてお話をいただきます。

「三重モデル」はどのようにして生まれ、どのように成熟、発展してきたのでしょうか。先生方のご講演の中に、私たちの日々の活動のヒントになるアイデアが、そして活力になる言葉がきっと見つかると思います。ご多忙とは存じますが、ぜひご参加いただけますようお願いいたします。